



う ろ ん ざ

胡乱座 (旧長岡家住宅)

h01



[ハレとケのまち京都]
四季と年中行事に見る
京町家の生活文化

景 021 (H19) 歴 008 (H21)

福井出身の大工・長岡家の自邸として建てられ、現在はゲストハウスとして国内外の旅行者たちに利用されています。

醒ヶ井通りに面して主屋、その裏手に座敷庭を挟んで離れが建ち、当初から主屋と離れが2階の通路で接続している珍しい構成ですが、基本的には1列3室型の典型的な形式の町家です。

明治30年に建てられた主屋は、1階の出格子や2階の虫籠窓など町家の意匠が良い状態で維持されています。

2階主座敷は九条壁で、床柱や床框、床地板などには銘木を用い、窓ガラスは特殊な加工によって模様を付けた小さな型板ガラスを真鍮の装飾で繋ぎ合わせています。2階四畳半の座敷は、茶室仕様に造られ、天井は表側奥行き半間を落込天井風にして網代組みで仕上げ、柱や落し掛には竹が用いられるなど、随所に意匠的な遊びが見られます。

「胡乱座 (うろんざ)」とは「法会などで僧侶が位次、席次によらず勝手に、とりあえず適当に座る」ことを意味する禅家の言葉です。それを踏まえ、「肩書きにとらわれず、胡座 (あぐら) をかき気楽に、よい加減で過ごしていただきたい」という思いから、胡乱座と名付けられました。



離れ



座敷

う
ろ
ん
ざ

〒600-8477 京都市下京区醒ヶ井通綾小路下る要法寺町427

電話番号 075-341-3226

アクセス 市バス「四条堀川」徒歩5分

ホームページ <https://www.uronza.com/japanese-home>